

# かごしまの昔話

むかしばなし

## 消えたお坊さん



始良市の中川原というところ  
に城光寺、仁王鼻という地名  
があります。ここには昔、城  
光寺(常光寺とも記す)という  
お寺があったそうです(詳し  
いことは不明)。今では、地名  
や墓地にその名残があるだけ  
ですが、次のような話が伝え  
られています。

昔、このお寺の和尚さんが  
都に行った帰りに、十歳ぐら  
いの美しい小僧を連れてきま  
した。小僧は賢く氣立てがよ  
かったので、檀家や村人たち  
からかわいがられていました。  
やがて、年月が流れ、小僧  
は、前途有望なお坊さんとし

て立派に成長していました。

ある年のこと、この地区で  
戦いがおこり、多くの兵が負  
傷しました。これを知ったお  
坊さんは、敵味方の区別なく  
お寺で介抱しました。まず、お  
寺の泉からわきでている水で  
傷口を洗います。それから、泉  
の水を沸かして湯あみをさせ  
ます。すると、不思議に傷が早  
く治るのです。

そのうち、戦いは終わり、負  
傷者たちはみなお礼を言っ  
て寺から立ち去りました。とこ  
ろが、変な噂が広がっていつ  
たのです。

「あの坊さんは親切過ぎる。あ

やしか」

「味方より敵の方をよく世話  
しとったげな」

「じゃれば、敵の回し者かもし  
れん」など。それは殿様の耳に  
もはいり、回し者かどうか吟  
味するためお坊さんを捕らえ  
るということになりました。  
これを知ったある村人が急ぎ  
お寺に駆けつけ、「捕らえられ  
たらおしまいじゃ、申し開き  
も何も聞いてはもらえん。早  
くどこかへ逃げるがいい」と  
教ええました。しかし、お坊さん  
は静かに微笑しただけでした。  
その夜遅く、突然、雷鳴がと  
どろいたかと思うと、お寺か



ら火の手があがりました。そ  
うして、お寺は瞬く間に焼け  
てしまいました。

翌朝、村人たちが焼け跡の  
片付けに来ましたが、お坊さ  
んの亡きがらを見つけること  
ができません。元気な姿を見  
た人もいませんでした。お坊  
さんは寺と共に消えてしまっ  
た、不思議なことだと語り合  
ったということです。なお、お  
寺の泉はその後しばらく湯治  
などに使われましたが、やが  
て枯れてしまったそうです。

(原話『ふるきをたずねて』)